

通し番号	4621
------	------

分類番号	24-A2-41-01
------	-------------

「かながわのスギ・ヒノキ穿孔性害虫被害の実態と木材利用」の発行

[要約] 被害材の積極的利用の一環として被害材の土木資材等への利用促進を図るため、丸太杭の強度・耐久性試験を行い、これらの結果をとりまとめて被害材利用のための普及資料を作成した。

神奈川県自然環境保全センター・研究企画部・研究連携課 連絡先 046-248-0321

[背景・ねらい]

神奈川県では県南西部を中心に「トビクサレ」と呼ばれるスギ・ヒノキ材の変色腐朽被害が発生している。「トビクサレ」は穿孔性害虫のスギノアカネトラカミキリが生立木を加害することにより生じる。カミキリ成虫は枯れ枝に産卵することから、枯れ枝を発生させない施業により被害発生を低減することができる。しかし、枝打ちなどが十分に行われなかつた林分では、被害木が蓄積するとともに変色や腐朽などの材質劣化が進んでいる。今後、被害地で良質材の生産を行うには、被害材の積極的利用と被害回避のための効果的な施業が必要とされる。

[成果の内容・特徴]

普及資料の作成にあたり、これまでの県内外におけるスギノアカネトラカミキリに関する文献調査を行い、本県の被害の実態とスギノアカネトラカミキリの生態、施業と対策、およびトビクサレのメカニズムについて知見を整理した。また、これまでに実施してきた被害材の室内腐朽促進試験、長期野外暴露試験および暴露材の実大強度試験の結果を解析し、被害材の耐久性と強度性能を明らかとした。また、本県の木材利用の動向を踏まえ、低質材の土木資材、LVL および建築材への活用事例を収集した。

[成果の活用面・留意点]

作成した『かながわのスギ・ヒノキ穿孔性害虫被害の実態と木材利用』は、穿孔性害虫による育林途上の被害の実態と対策から被害材の活用方法まで示したもので、各地域の林業普及職員の業務に役に立つことが期待される。あわせて、これまでの神奈川県での間伐小径木の活用事例や、被害材の建材としての利用事例など、研究成果のみならず県の林務行政としての木材利用の取組みも掲載している。

本資料は、普及職員を対象とした限定部数の発行であったため、県民への普及啓発のため、自然環境保全センター研究企画部のHPで公開している。

(<http://www.agri-kanagawa.jp/sinrinken/tebiki/kamikiri.pdf>)

[具体的データ]

 神奈川県
自然環境保全センター

かながわの スギ・ヒノキ穿孔性害虫被害 の実態と木材利用



かながわのスギ・ヒノキ穿孔性害虫被害の実態と木材利用
神奈川県自然環境保全センター
平成25年3月

かながわのスギ・ヒノキ穿孔性害虫被害の実態と木材利用

目 次

はじめに	1
1 被害の実態とスギノアカネトラカミキリの生態	2
全国の被害状況	2
神奈川の被害地域	2
スギノアカネトラカミキリの生態	4
2 施業と対策	6
林業上の問題点	6
被害の回遊	6
被害材利用の重要性	7
3 トピクサレのメカニズム	8
変色と腐朽の原因	8
4 被害材の耐久性と強度性能	9
被害材は腐りやすいか	9
野外暴露した被害材	11
被害材は折れやすいのか	11
見た目の被害と実際の強度	13
5 被害材の利用	15
木材をぐるめる動向	15
土木資材への活用	15
LVL利用	18
建築材利用の取り組み	20
用語解説	22
参考文献	24
謝 辞	

図1 表紙と目次

- [資料名] かながわのスギ・ヒノキ穿孔性害虫被害の実態と木材利用（平成25年3月）
[研究課題名] 効果的な水源林の整備に関する研究開発 / 資源循環利用の支援手法改良
[研究期間] 平成20～24年度
[研究者担当名] 谷脇 徹、中島岳彦（県産業技術センター）